

ユースから版

事業レポート

北こみフェスタ ～つながる、ひろがる、交流の輪～

3月10日(土)に「きたせい」で、青少年が北区身体障害者団体連合会や地域の皆さんと一緒に祭りを行いました。バンド演奏や紙芝居などのステージ発表(要約筆記、手話あり)、マジックやゲームなどの体験プログラムのブース、カレーやパケツプリンなどもありました。約200人の青少年や地域の方々が来場し、とても賑やかな1日となりました。



陶芸ワークショップ haru うらら♪ お花見セット

1月24日から2月21日にかけて計4回、東山青少年活動センターで、手びねりとたたね成形で、春をイメージした器や酒器など自由に作陶しました。参加者は7名。みなさん、交流を楽しみながらこだわりの作品を仕上げました。最終日にはお菓子を少しずつ持ち寄り、作った器を使ってお茶会を実施。思い通りにいかない「難しさ」と「面白さ」を経験できたことが、情報が溢れる生活の中での、新鮮な経験となったようです。



高校生企画のフットサル大会とバスケットボール大会!

下京青少年活動センターでは、3月4日(日)にフットサル大会「KOBATY CUP」を、3月10日(土)にはバスケットボール大会「出逢いのBasket Ball」を開催しました!どちらも、センターを利用する高校生グループが企画・運営したイベントで、毎週火曜日の17時～19時にスポーツルームで実施している「中高生のためのフリータイム」がきっかけとなって生まれました。違う学校、違う学年の参加者が集まり、スポーツを通じた新たな交流の輪が広がりました。



ケーキングマイセルフ

2月11日、南青少年活動センターでお菓子づくり教室「ケーキングマイセルフ」を開催しました。バレンタインが近いこともあり、女の子を中心とした中学1年生から21歳までの7名が参加、「トリュフチョコレート」を作りました。チョコレートをきざむ作業では「めっちゃ大変!明日、筋肉痛なるわー!」と大盛り上がり。ラッピング作業ではそれぞれが満足いくまで真剣に取り組んでいました。初めて青少年活動センターを訪れたという中学生も交えて、終始笑いの絶えない楽しいプログラムとなりました。



Media Pub 事業 「富翁プロジェクト」

伏見はわが国酒の産地として有名ですが、伏見青少年活動センターの周辺には大小24もの酒蔵が点在しています。「富翁プロジェクト」では、大学生2人、高校生1人の撮影クルーが創業350年の「北川本家」を2ヵ月以上かけて取材し、5人の蔵人の視点を通して酒造りの工程やその心を描いたすてきな動画作品に仕上げました。伏見青少年活動センターでは、これからも若者の手で伏見の文化や遺産、産業を動画に収めて、世界に発信していくと考えています。



事業案内

居場所プログラムやっています!



あなたにとっての「居場所」はどこですか? 学校? 家? バイト先? 友達の輪の中? 恋人のとなり? いろんな「居場所」があるけれど、北青少年活動センターでは毎月第2・4土曜日に、お茶を飲みながらゲームをしたり、お菓子を作ったり、散歩に行ったりする、「ごぶSAT(ごぶさた)」というプログラムを実施しています。来る人みんなが楽しくて、ホッとできて、誰かと話ができる「居場所」です。ちょっと行ってみようかなと思った時に、ちょっと寄れる。そんな「居場所」を一緒に作りませんか?

ストリートダンス教室開講!

下京青少年活動センターでは、HIPHOP、JAZZなど様々なジャンルをとり入れたストリートダンス教室を、5月から毎週木曜日に開講します! まったくの初心者もOKの初級クラスは18:30～19:45、経験者向けの中級クラスは19:45～21:00で、見学や体験参加も可能です。講師は、有名アーティストのバックダンサーも務める実力派ダンサーMIHO先生。まずは4月21日(土)の16時～19時、一日体験デーに参加してみよう!



中学生のスポーツタイム

新学期が始まると、新中学1年生が新しい利用者になります。初めて自分の意志で部屋の利用・予約ができるようになりますが、センターがどんな所か不安を感じている中学生が気軽に参加できるのがこのプログラムです。毎週土曜日午後3時から5時まで、山科青少年活動センターのスポーツルームを中学生限定で予約なしで利用できます(種目は卓球)。新しい知り合いを作り、ユースワーカーと親しくなる大切な機会です。



ロビー喫茶

南青少年活動センターでは、ロビーの喫茶コーナーで、毎週月・木曜日の夕方に「ロビー喫茶」を実施しています。大学生年代のボランティアスタッフが、ホットケーキやスープ、サンドイッチといった軽食を提供しながら運営しています。センターを訪れた中高生や大学生団体などが利用しています。また、喫茶を利用するみなさんとスタッフが一緒にゲームをしたり、時には勉強の相談に乗ったりしながら、様々な交流や関わりが生まれています。喫茶を通じて、誰かとお話したい、勉強の相談に乗ってほしい、学校や家以外でゆっくりできる場所がほしいという方はぜひ一度のぞいてみてください。



研修レポート 「若者に中間就労の場を～新たな学びと働き方を目指して～」

子ども・若者支援室支援コーディネーター 亀高 達雄

2月18、19日に神戸で開催された、「社会的ひきこもり支援者全国実践交流会」に参加しました。交流会は、支援者や当事者が一体となり、社会的ひきこもりの現状や支援について理解を深めていくものでした。特別シンポジウムで、シンポジストの一人が福祉的就労の賃金の低さや一般就労へのハードルの高さを指摘し、「社会的雇用制度」の創設を提言していました。そのなかで、「中間的就労」が必要と発言されていたのが印象に残りました。

私は子ども・若者支援室で、さまざまな理由で生活しづらい若者の支援にあたっていますが、就労の一つ前の段階に、働きながら社会参加や就労への意欲、対人関係の向上などのプラス対価を得ることができる場が必要ではないかと感じていました。中間的就労という選択肢が生まれ、拡大していくことで、無業者らの働く場や社会参加の場として活用され、そこが自己実現への手段の一つになることを期待します。